

原発 **0** にむかって

2012年10月3日 No.35

<http://www.tokyominiren.gr.jp/>

編集・発行／東京民医連事務局 tel : 03-5978-2741 fax : 03-5978-2865 mail : sien@tokyominiren.gr.jp

看護学生が住民と原発再稼働反対デモ

9月14日(金)、流山市内の地域住民の発案と東葛看護学校・平和ゼミナールの学生の呼びかけで、「No Nukes from 流山デモ」が行われました。はじめは「どのくらい集まるかな?」と心配していたのですが、夕方から人が集まりだし、実際には70人を超える参加となりました。みんなで「原発再稼働反対」を訴えながら、東葛看護学校から流山電鉄平和台駅まで約4kmのコースを歩きました。

情報発信をブログ「流山から脱原発を」やTwitterで行ったのですが、それらを見て、途中から参加してくれた地域の方もいました。他にも、お茶を準備して待っていてくれた地元商店の方、到着地点でおにぎりを準備して迎えてくださった方など、たくさんの方々の協力があって成功できたのだと思います。

デモのコールは学生が交代で訴えました。首相官邸前のデモと同様に思い思いのいでたちで、鳴り物あり、風船やうちわ、横断幕などで、それぞれが「脱原発」への思いを表現しました。



映画「シェーナウの想い～自然エネルギー社会を子どもたちに」鑑賞会開催

9/11(火)、健全会・立川相互病院職員有志による『脱原発・自然エネルギーへの転換を求める会』の学習企画で、ドイツのドキュメンタリー映画『シェーナウの想い～自然エネルギー社会を子どもたちに～』の鑑賞会が開かれました。



<映画あらすじ> ドイツ南西部、人口 2500 人のシェーナウ市の住民が、1986年のチェルノブイリ原発事故をきっかけに、子どもたちを守るべく『原子力のない未来のための親の会』を結成。ついには自分たちが電力会社を立ち上げ、原発に頼らない、自然エネルギーをメインとしたエコ電力の供給を開始させるまでの10年間を追ったドキュメンタリー。

参加者からは、「こんな小さな町で電力会社を興すのは大変なことのように思ったが、住民のとても明るく前向きな姿に感銘を受けた」「日本でもできる事があると感じた」との声が聞かれました。この映画には、原子力に頼らないエネルギー使用への意識改革、電力供給事業における発想転換など、原発ゼロを目指すためのヒントがたくさんつまっていると思います。
(国分寺ひかり診療所・鶴田)

意見広告へ賛同のお願い



ふくしま復興共同センターと原発をなくす全国連絡会は、全国紙2紙と福島2紙に同趣旨の意見広告を掲載します。全日本民医連でも賛同の呼びかけを行っています。団体の賛同については名称を掲載するため10/31(水)まで、個人申込は11/10(土)までをお願いします。詳細は「ふくしま復興共同センター」のホームページ(<http://fukko.miraisoft.com>)へ。